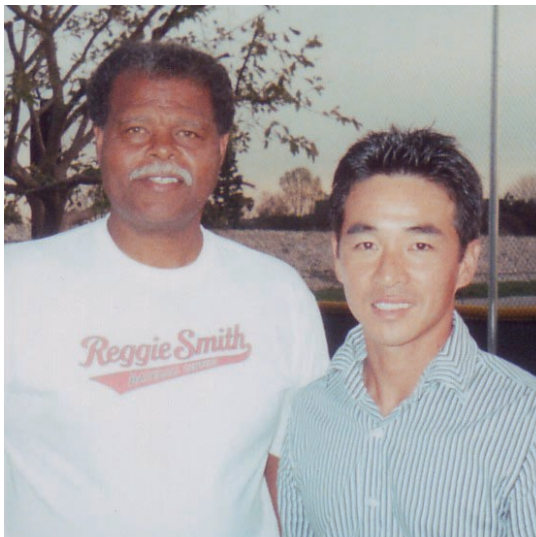


生き生きコラム 天狗の広場

富士大学OBや大学の教授陣、スタッフ、富士大学ゆかりの方々による
元気が出るコラムをお楽しみください。



写真左：レジースマス 右：滝口 博之

PROFILE

福島県いわき市出身。平成6年、富士大学経済学部卒業。
卒業後渡米し、マイナーリーグトライアウトに挑戦。12年福岡ダイエーホークス（現ソフトバンク）1軍通訳。
翌年再渡米し、ロサンゼルスドジャース通訳、レジースマスベースボールセンター国際指導部長を経て、18年レジースマスベースボール：ジャパンを開講。

生き生きコラム一覧



TOPICS

富士大学教授
キャリア教育推進室長

馬上 達幸



TOPICS

富士大学大学院
経済・経営システム研究科
准教授

金子 賢一



岩手県陸前高田市市長

中里 長門



平成19年3月 富士大学卒業
米国公認会計士（USCPA）
取得

速水 孝太



台温泉 松田屋旅館主人
花巻市議会議員

松田 昇



生き生きコラム
天狗の広場 バックナンバー

タキグチ ヒロシ

滝口 博之

レジースマス ベースボール：ジャパン

メジャーの技術を日本へつなぐ架け橋に

クレイジーな行動力でメジャーに挑戦

富士大学では硬式野球部に所属、幼い頃から野球ひと筋だった滝口博之さん。アメリカ・メジャーリーグは憧れのステージでした。

卒業後、偶然「バスケットボールのマイケル・ジョーダンがメジャーに挑戦」という新聞記事を目にした滝口さんは、「同じグラウンドへ行けばどうにかなるのでは」と、ただその一心で単身アメリカへと渡ります。

「日本人がメジャーに挑戦するなんて、ほとんど前例のない頃。今考えれば、当時は英語も話せなかったし、球場に行ったら相手にされないかもしれないし…クレイジーに近いですね（笑）。両親は当然、大反対でしたよ」

フロリダ州サラソタのキャンプへ直接赴き、トライアウトを受けさせてほしいと体当たりの交渉。身長160センチの滝口さんは、現地のスタッフに、「ここはプロの世界だけど、大丈夫か？」

と言われたとか。酔狂な観光客がお遊びで立ち寄ったと思われたのでしょうか。

しかし滝口さんは見事、最終選考まで残る高評価。2シーズンにわたってメジャーに挑戦した経験は、今の滝口さんの大きな礎になっています。

「出会いに恵まれた2年間でした。言葉も、ビザの問題も分からず、ただがむしゃらに頑張っていた僕を、応援してくれる人がたくさんいた。僕自身、プレーヤーとして悔いはないですね」

体当たりで挑戦したメジャーの夢を後生に

25歳で野球選手としての自分に終止符を打った滝口さんですが、「野球が好きだ」という姿勢は、いつでも全力投球。福岡ダイエーホークス（現ソフトバンク）1軍通訳を務めたのち、石井一久のロサンゼルス・ドジャース入団にあわせて、ドジャースのアジア圏部署通訳兼ウェブサイト記事を担当。その後、ロサンゼルス「レジースマス ベースボールセンター」に、スタッフとして携わるチャンスに恵まれました。

メジャーリーガーとして23年間現役プレー、メジャー屈指の長打者として名を馳せたレジースマス。その野球指導を目の当たりにした滝口さんは、衝撃を覚えます。

「小・中学生くらいの子どもは、1回のレッスンでメキメキ上達することがよくあります。スクールで習っていた子がメジャーにスカウトされたり、大学の特待生になったり…。野球を正しく教えることで、その人の人生を大きく後押しできることを教えてもらいました」
持ち前の情熱と努力で、同校の国際指導部長に就任。平成18年に帰国すると、日米で初めてレジースマスの看板を受け継ぎ、本社と直結して少年野球の指導を行う「レジースマス ベースボール：ジャパン」を開講しました。

少年野球といえば、リトルリーグや部活動中心で、「野球をスクールで学ぶ」という習慣がなかった日本。初めのころは、キャンプの参加者がたったの1名、ということもあったとか。しかし滝口さんはそれすらも、

「すごくラッキーなこと。マンツーマン指導ができるじゃないですか」

と、前向きな姿勢を決して崩しませんでした。今では地元福島でのレッスンはもちろんのこと、首都圏各地、宮城県、そして、富士大学のある岩手県花巻市でのキャンプも増えてきました。

「僕の使命は、レジースマスの野球技術を全国に広め、プロ野球選手やメジャーリーガーを輩出すること。夢を実現したいと努力する子どもたちを、精一杯応援したいと思っています」